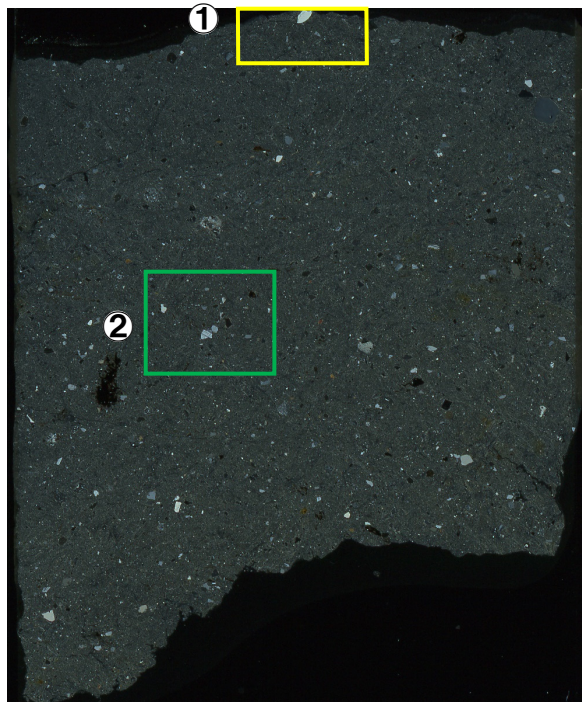


照岸地点(照岸1-3ボーリング)(8/23)



凡例  
○:白色粒子



クロスニコル

10mm

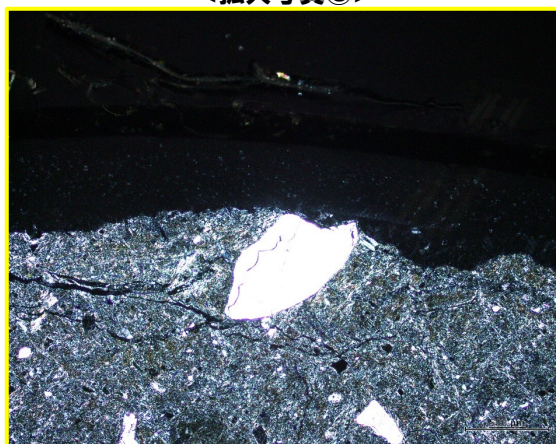
<拡大写真①>



クロスニコル

1mm

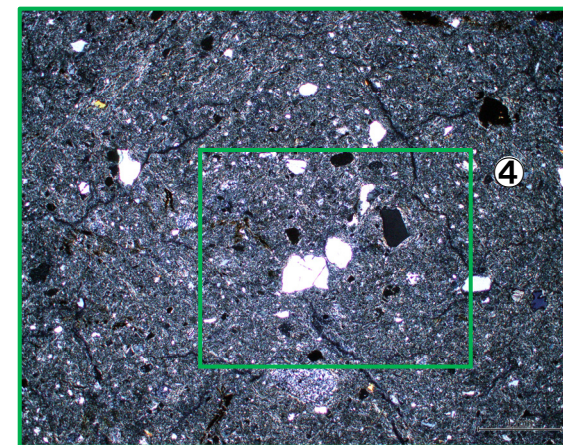
<拡大写真③>



クロスニコル

0.5mm

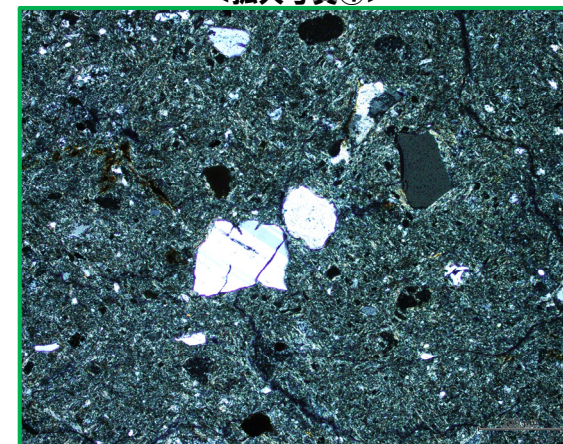
<拡大写真②>



クロスニコル

1mm

<拡大写真④>

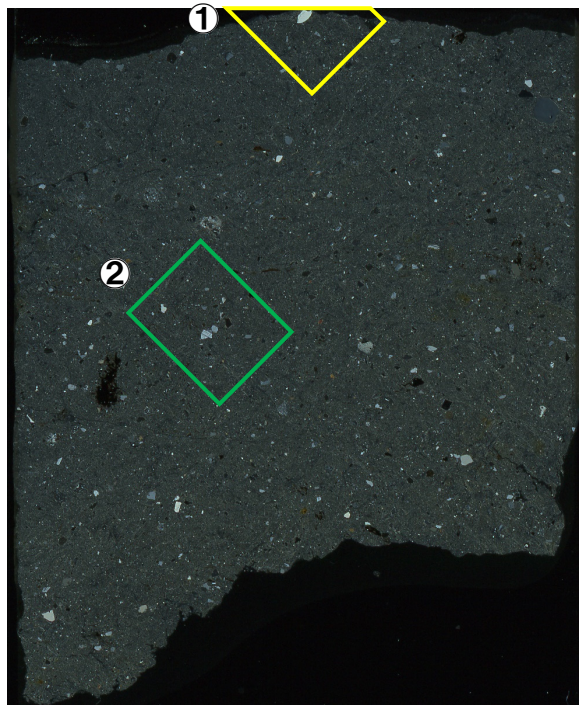


クロスニコル

0.5mm

余白

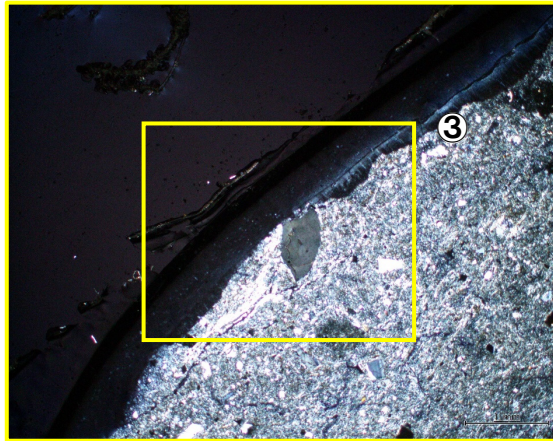
照岸地点(照岸1-3ボーリング) (9/23)



クロスニコル

10mm

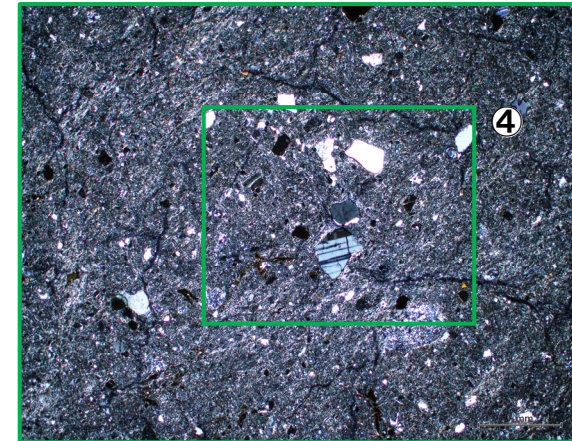
<拡大写真①>



クロスニコル(左方向に45°回転)  
<拡大写真③>

1mm

<拡大写真②>



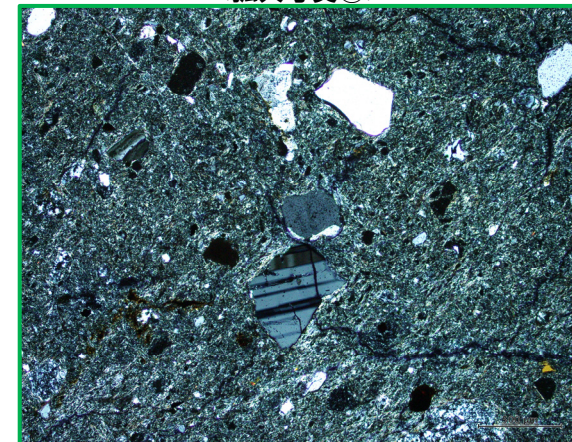
クロスニコル(左方向に45°回転)  
<拡大写真④>

1mm



クロスニコル(左方向に45°回転)

0.5mm



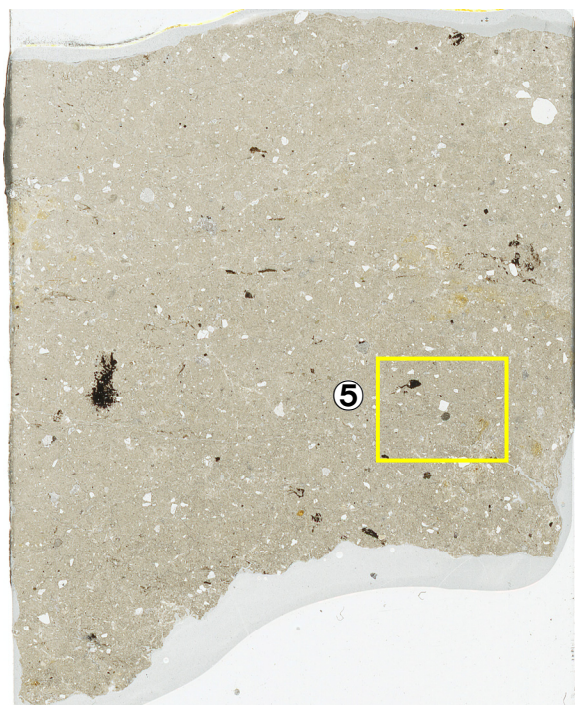
クロスニコル(左方向に45°回転)

0.5mm

## 照岸地点(照岸1-3ボーリング)(10/23)

○拡大写真⑤の約0.1cm以下の白色粒子に対応する粒子は、オープンニコルで無色であり、クロスニコルで低い干渉色を示し、劈開及び双晶が認められることから、斜長石であると判断される。

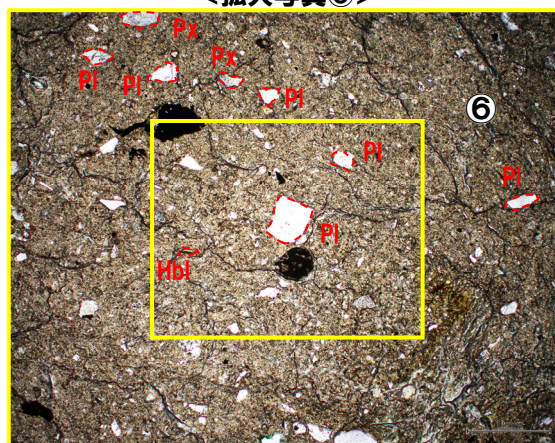
Pl:斜長石  
Hbl:角閃石  
Px:輝石類



オープンニコル

10mm

&lt;拡大写真⑤&gt;



オープンニコル

1mm

&lt;拡大写真⑥&gt;



オープンニコル

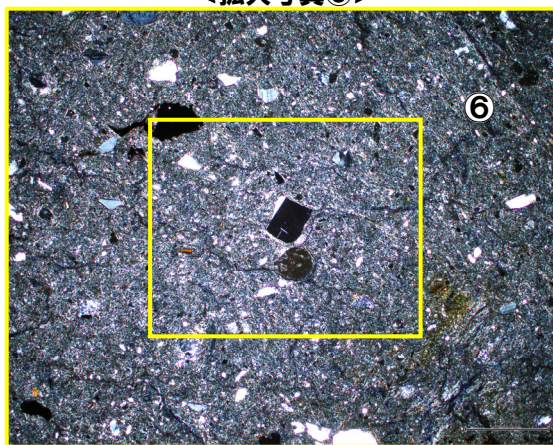
0.5mm

照岸地点(照岸1-3ボーリング)(11/23)



凡例  
○:白色粒子

<拡大写真⑤>



クロスニコル

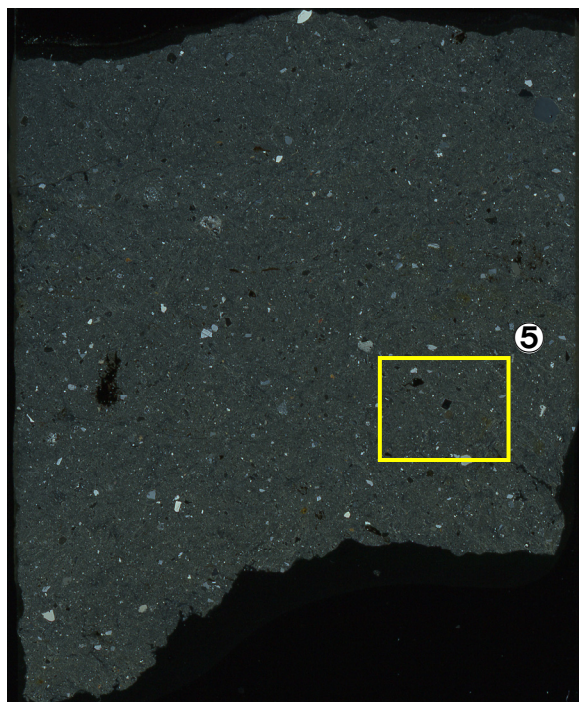
1mm

<拡大写真⑥>



クロスニコル

0.5mm

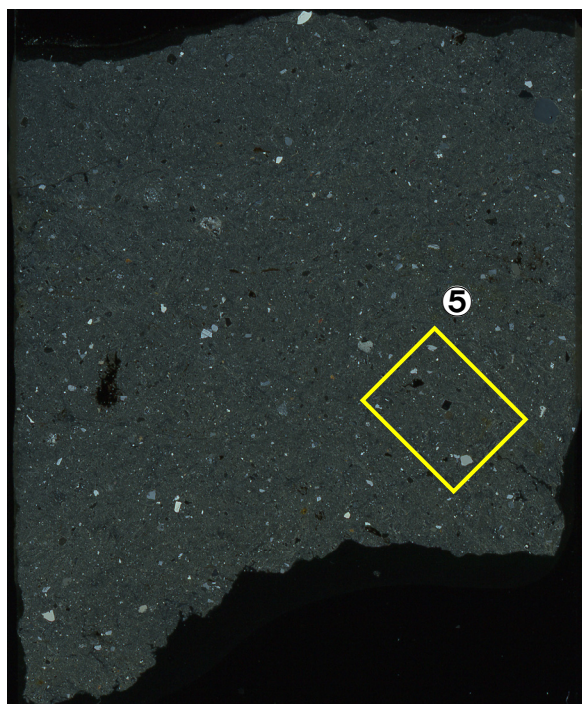


クロスニコル

10mm

余白

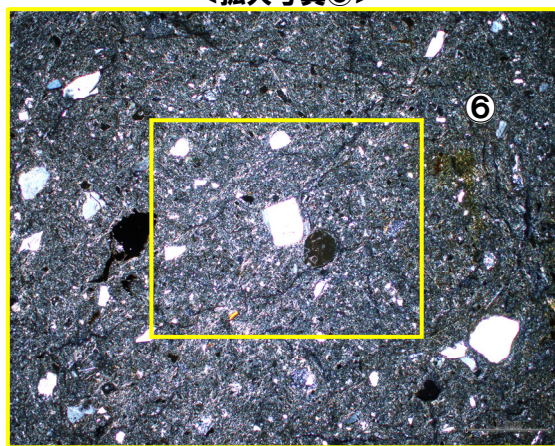
## 照岸地点(照岸1-3ボーリング)(12/23)



クロスニ科尔

10mm

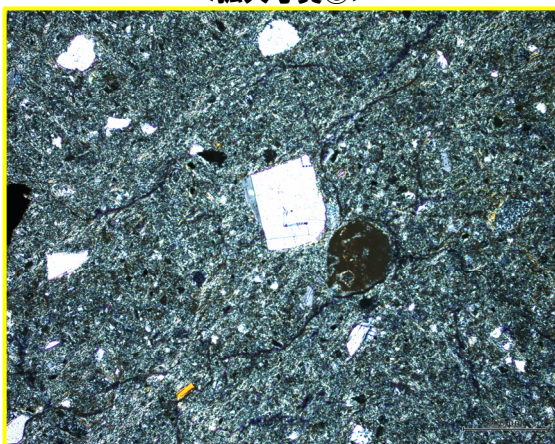
&lt;拡大写真⑤&gt;



クロスニ科尔(左方向に45°回転)

1mm

&lt;拡大写真⑥&gt;



クロスニ科尔(左方向に45°回転)

0.5mm

## 照岸地点(照岸1-3ボーリング)(13/23)

- 柱状図において、層相を「軽石」としている深度6.40～6.50mについては、柱状図記事に「径0.3cm以下の軽石濃集」との記載がなされていることから、R3.10.14審査会合以降、コア再観察を行った。
- 再観察の結果、軽石の記載に対応すると判断される白色粒子が確認されたことから、当該粒子の同定を目的とした薄片観察を行った。
- 薄片作成前試料の観察面において、径0.3cm程度以下の白色粒子が点在する。

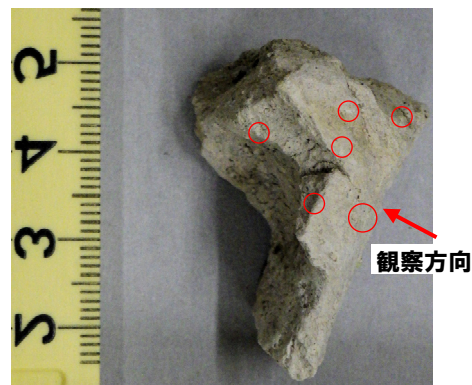


薄片試料採取位置  
(深度6.40～6.43m)

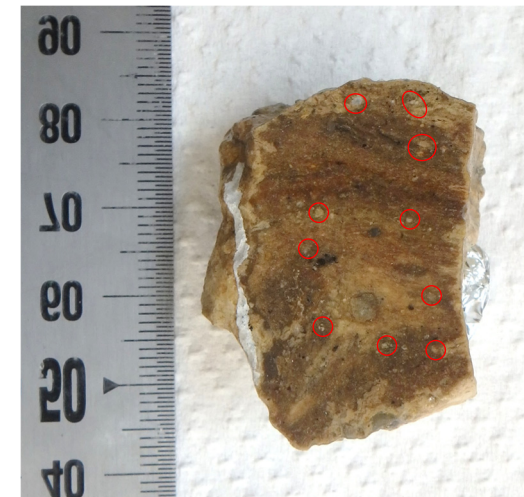
コア写真(照岸1-3;深度6～9m)(2022年4月撮影)



薄片試料採取位置拡大



薄片作成前試料



凡例  
○:白色粒子

薄片作成前試料(観察面)(左右反転)



## 照岸地点(照岸1-3ボーリング)(14/23)

### 【薄片試料全体の観察結果】

- 作成した薄片試料全体を観察した結果、本試料は、火山ガラス、斜長石、岩片、石英、少量の輝石及び角閃石から構成され、軽石は認められない。
- また、観察面上部においては、粒子及び粘土鉱物の配列による堆積構造が認められる。

### 【白色粒子に関する観察結果】

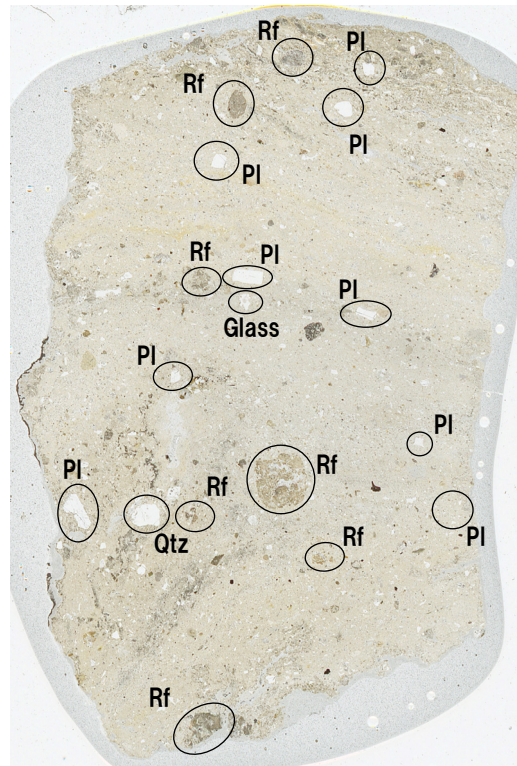
- 薄片作成前試料の観察面において確認された白色粒子と対応する粒子を対象に観察を行った結果を次頁～P49に示す。
- 観察の結果、柱状図記事に“軽石”と記載がなされている粒子は、岩片又は斜長石であると判断される。

Rf: 岩片  
Glass: ガラス片  
Pl: 斜長石  
Qtz: 石英



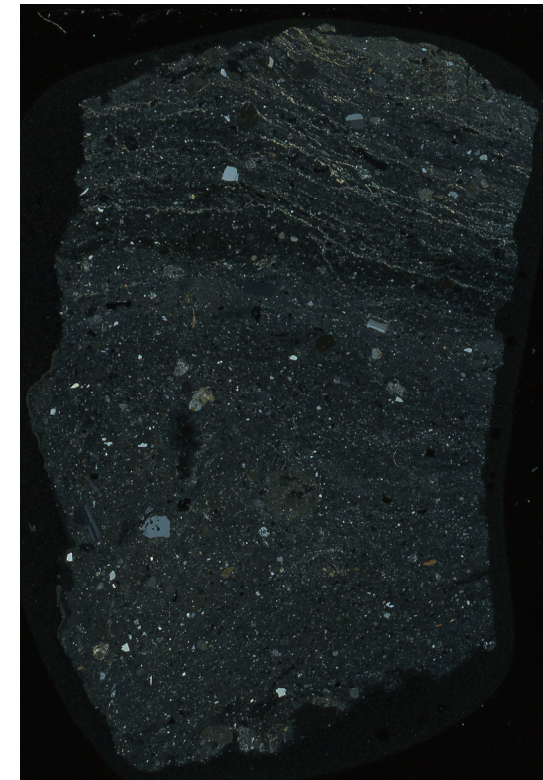
オープンニコル

10mm



オープンニコル

10mm



クロスニコル

10mm

## 照岸地点(照岸1-3ボーリング)(15/23)

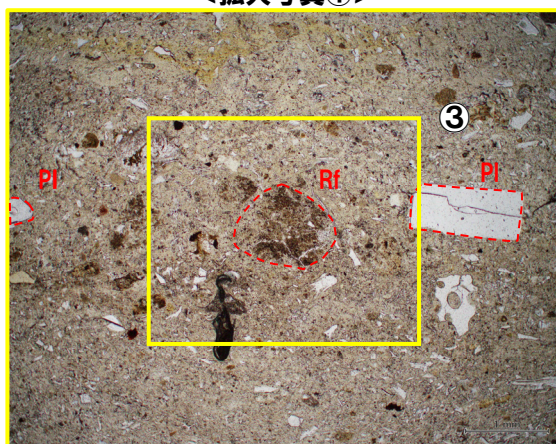
Rf:岩片  
Pl:斜長石

- 拡大写真①の約0.3cmの白色粒子に対応する粒子は、外形が明瞭であり、斑状組織が認められることから岩片であると判断される。
- 拡大写真②の約0.1cmの白色粒子に対応する粒子は、外形が明瞭であり、斑状組織が認められることから岩片であると判断される。



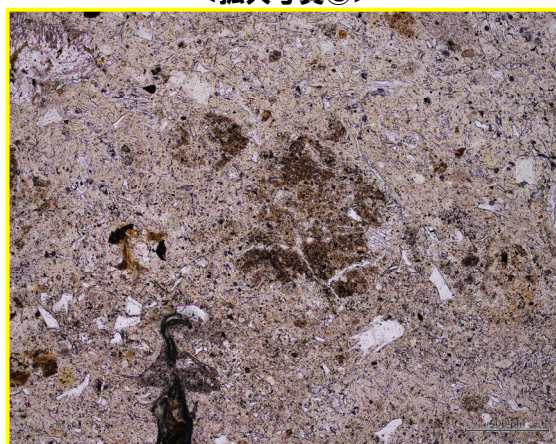
オープンニコル 10mm

<拡大写真①>



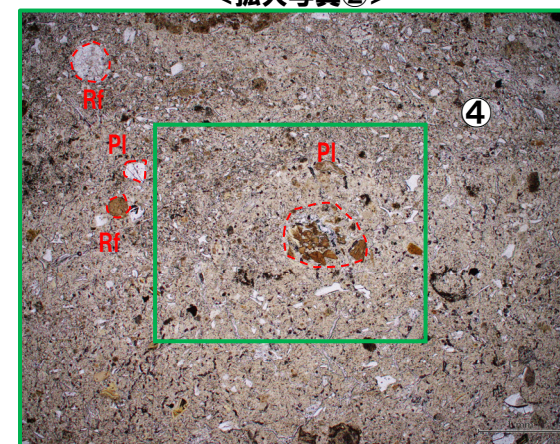
オープンニコル 1mm

<拡大写真③>



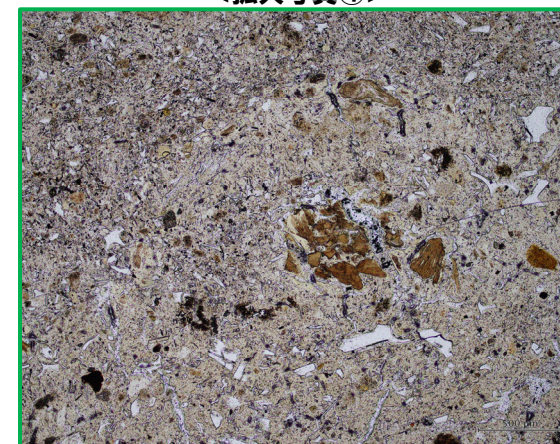
オープンニコル 0.5mm

<拡大写真②>



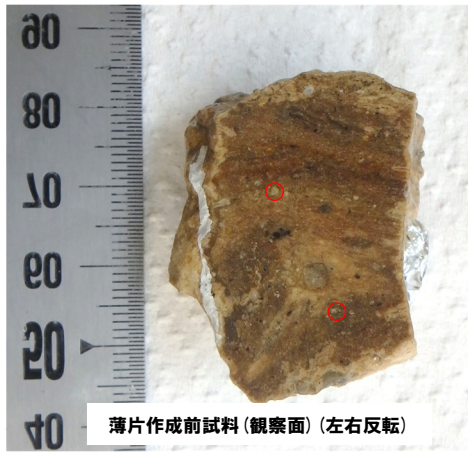
オープンニコル 1mm

<拡大写真④>



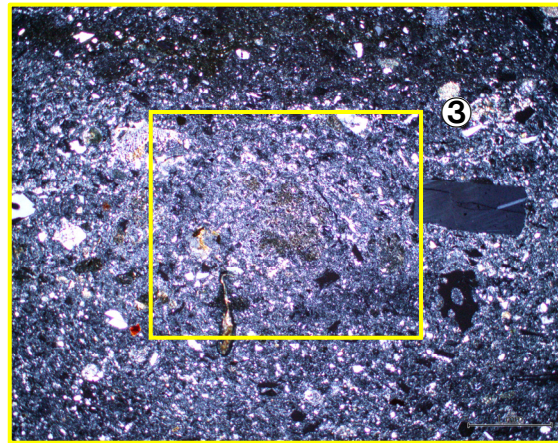
オープンニコル 0.5mm

照岸地点(照岸1-3ボーリング)(16/23)



凡例  
○:白色粒子

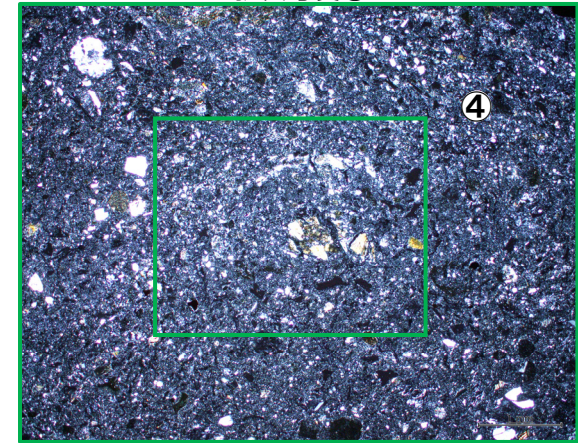
<拡大写真①>



クロスニコル

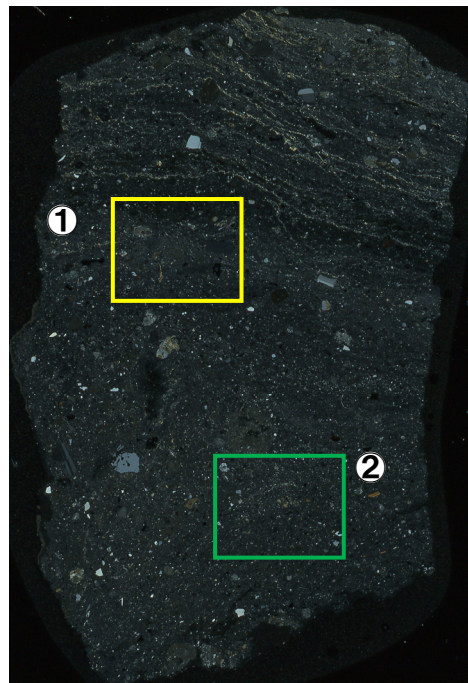
1mm

<拡大写真②>



クロスニコル

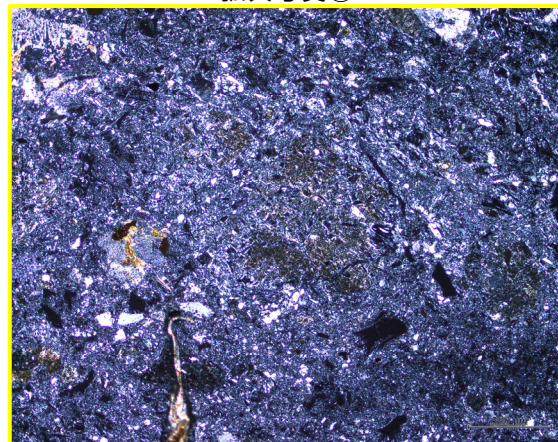
1mm



クロスニコル

10mm

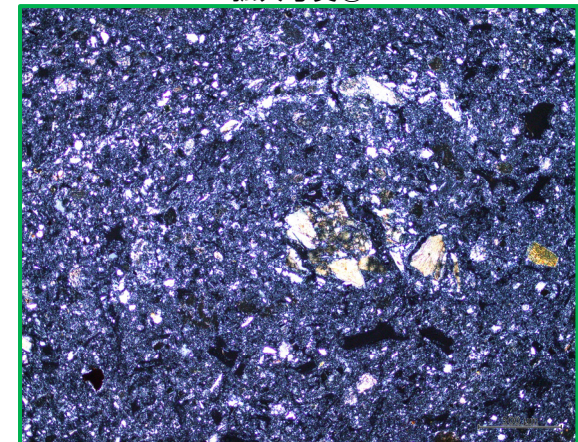
<拡大写真③>



クロスニコル

0.5mm

<拡大写真④>

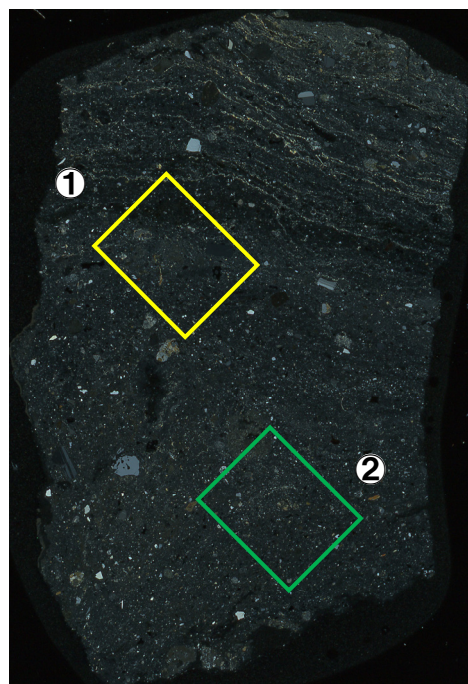


クロスニコル

0.5mm

余白

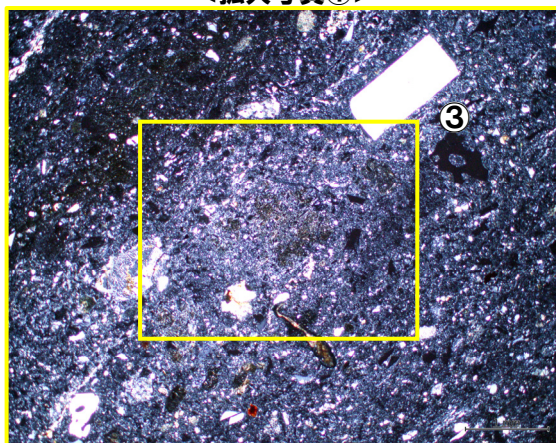
照岸地点(照岸1-3ボーリング)(17/23)



クロスニコル

10mm

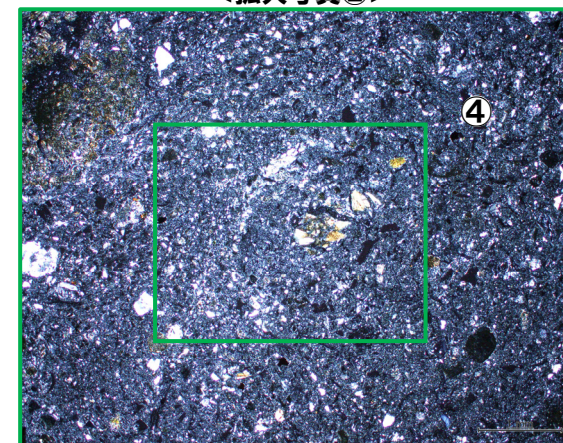
<拡大写真①>



クロスニコル(左方向に45°回転)  
 <拡大写真③>

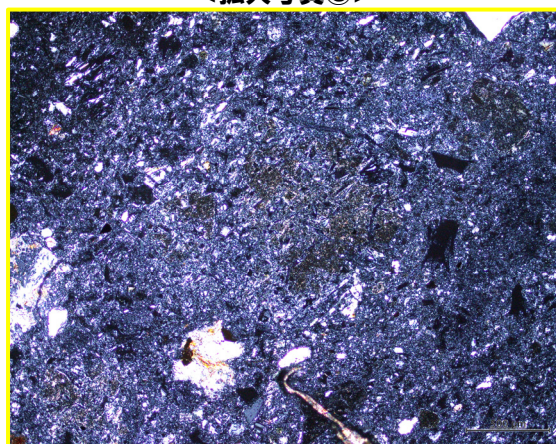
1mm

<拡大写真②>



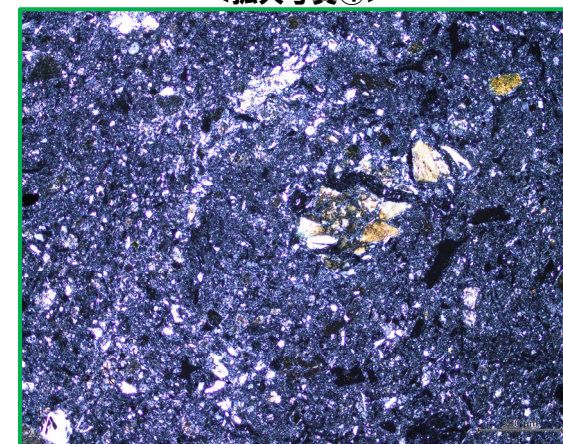
クロスニコル(左方向に45°回転)  
 <拡大写真④>

1mm



クロスニコル(左方向に45°回転)

0.5mm



クロスニコル(左方向に45°回転)

0.5mm

## 照岸地点(照岸1-3ボーリング)(18/23)

- 拡大写真⑤の約0.1cm以下の白色粒子に対応する粒子は、オープンニコルで無色であり、クロスニコルで低い干渉色を示し、劈開が認められることから、斜長石であると判断される。
- 拡大写真⑥の約0.1cm以下の白色粒子に対応する粒子は、それぞれは外形が明瞭であり、斑状組織が認められることから岩片であると判断される。

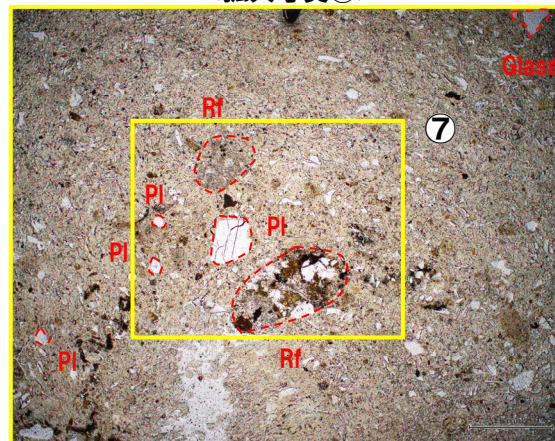
Rf: 岩片  
Glass: ガラス片  
Pl: 斜長石  
Qtz: 石英



オープンニコル

10mm

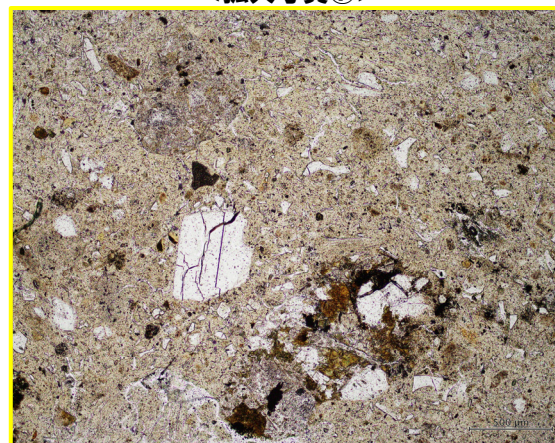
&lt;拡大写真⑤&gt;



オープンニコル

1mm

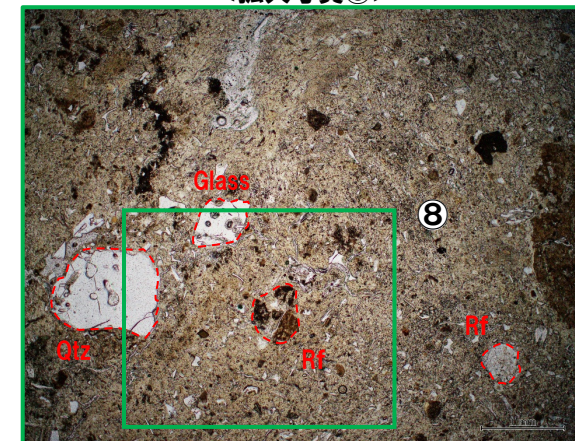
&lt;拡大写真⑦&gt;



オープンニコル

0.5mm

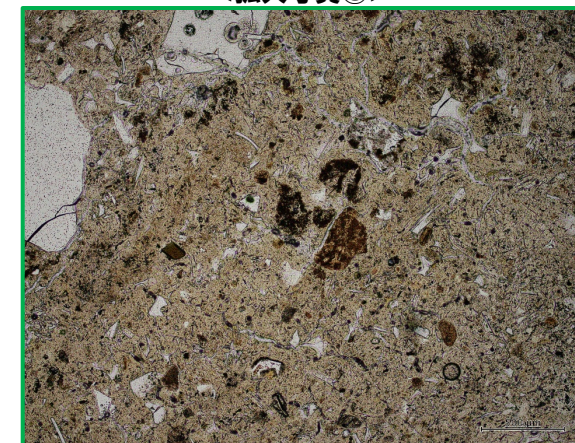
&lt;拡大写真⑥&gt;



オープンニコル

1mm

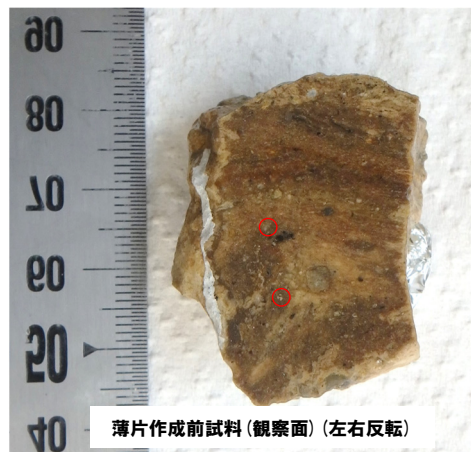
&lt;拡大写真⑧&gt;



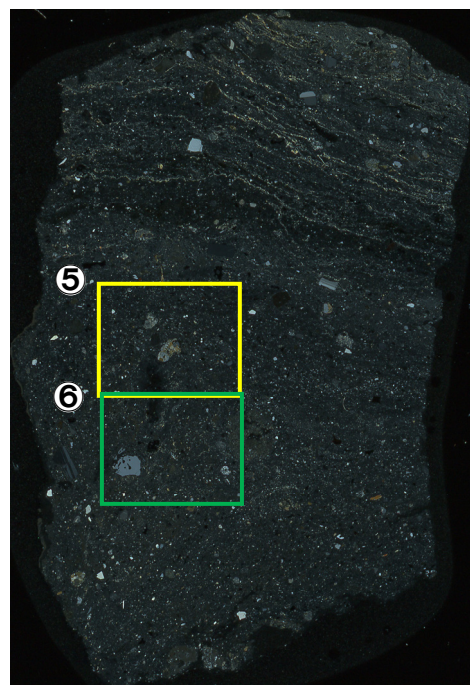
オープンニコル

0.5mm

照岸地点(照岸1-3ボーリング)(19/23)

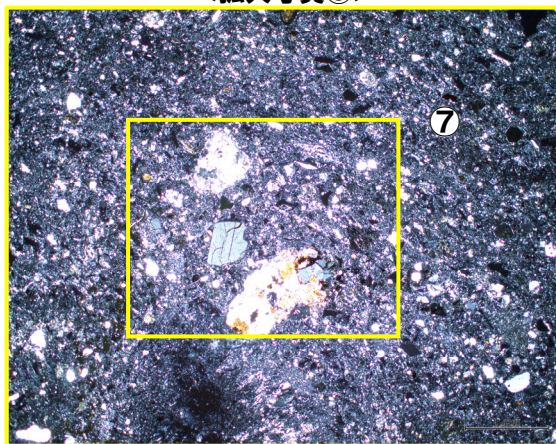


凡例  
○:白色粒子



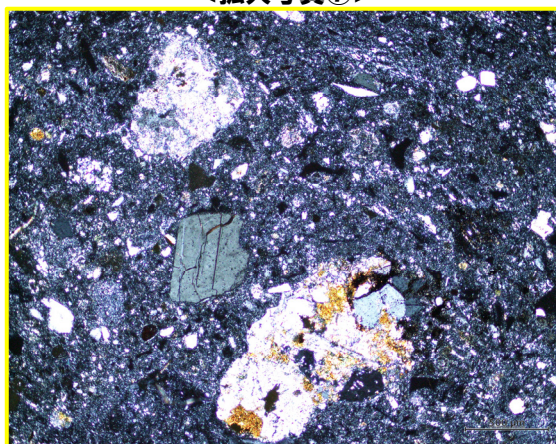
クロスニコル 10mm

<拡大写真⑤>



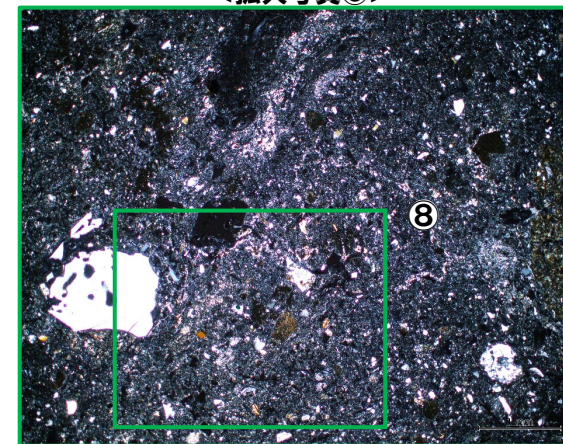
クロスニコル 1mm

<拡大写真⑦>



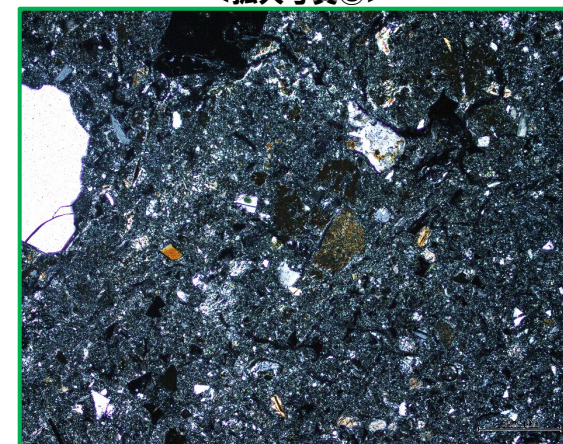
クロスニコル 0.5mm

<拡大写真⑥>



クロスニコル 1mm

<拡大写真⑧>

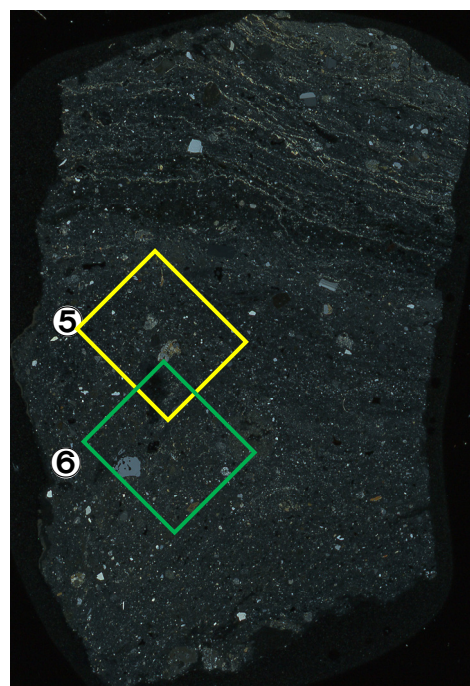


クロスニコル 0.5mm

余白



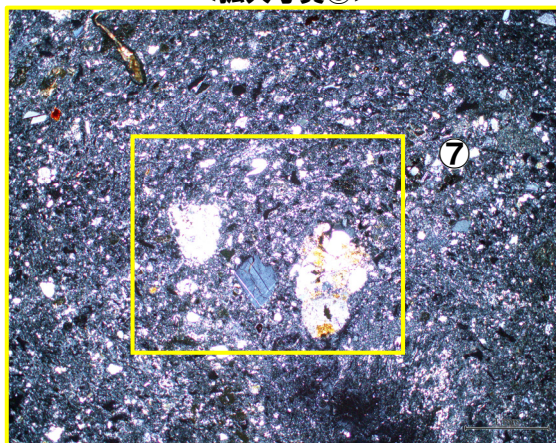
照岸地点(照岸1-3ボーリング)(20/23)



クロスニコル

10mm

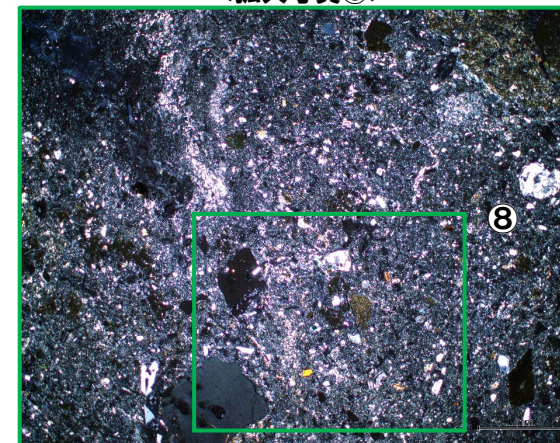
<拡大写真⑤>



クロスニコル(左方向に45°回転)  
 <拡大写真⑦>

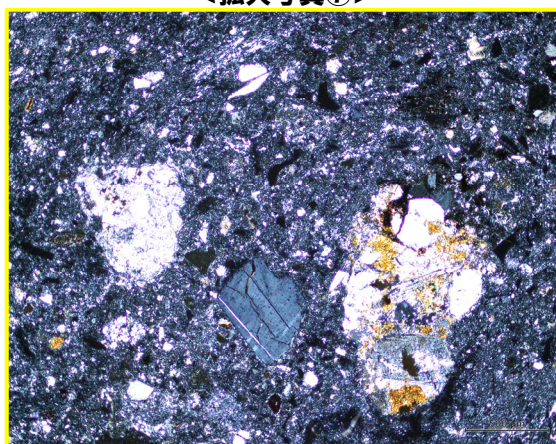
1mm

<拡大写真⑥>



クロスニコル(左方向に45°回転)  
 <拡大写真⑧>

1mm



クロスニコル(左方向に45°回転)

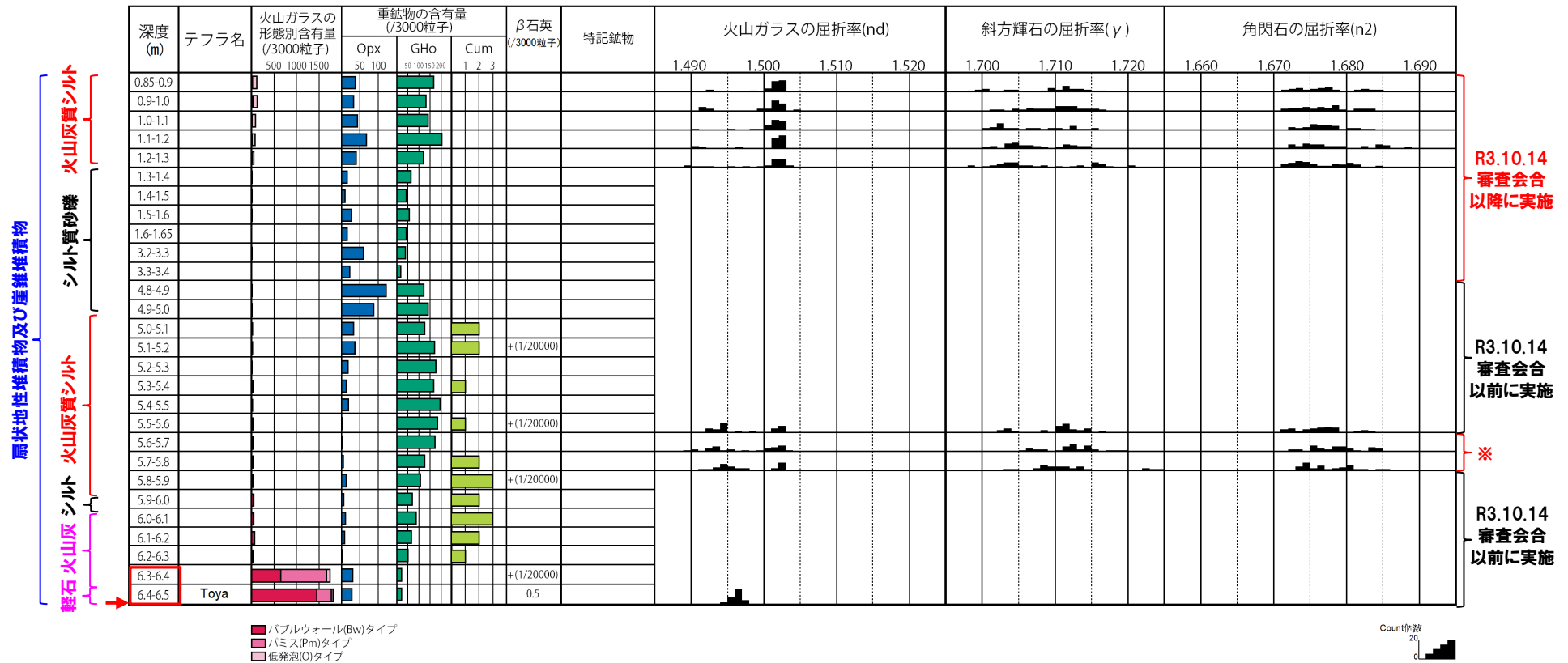
0.5mm



クロスニコル(左方向に45°回転)

0.5mm

## 照岸地点(照岸1-3ボーリング)(21/23)



- : 洞爺火山灰 (Toya) の降灰層準
- : 洞爺火山灰 (Toya) の二次堆積物a

火山灰分析結果の図において、降下火砕物由来として示しているが、火砕サージ由来か降下火砕物由来かを厳密に区別することは難しいと評価している。

### 火山灰分析結果 (深度0.85~1.65m, 3.2~3.4m, 4.8~6.5m)

※組成分析はR3.10.14審査会合以前に実施、屈折率測定はR3.10.14審査会合以降に実施。

#### (参考) 洞爺火山灰 (Toya) の屈折率 (町田・新井, 2011より)

| 略号   | 特徴                       | 火山ガラス       | 斜方輝石  | 角閃石         |
|------|--------------------------|-------------|---|-------------|
| Toya | バブルウォールタイプ・ハミタイプの火山ガラス主体 | 1.494-1.498 | 1.711-1.761<br>(1.758-1.761,<br>1.712-1.729<br>bimodal) | 1.674-1.684 |

#### (参考) Spfl及びSpfa-1の屈折率 (町田・新井, 2011より)

| 略号     | 特徴                       | 火山ガラス                        | 斜方輝石        | 角閃石         |
|--------|--------------------------|------------------------------|-------------|-------------|
| Spfl   | バブルウォールタイプ・ハミタイプの火山ガラス主体 | 1.500-1.503                  | 1.730-1.733 | 1.688-1.691 |
| Spfa-1 | ハミタイプの火山ガラス主体            | 1.501-1.505<br>(1.502-1.503) | 1.729-1.735 | 1.688-1.691 |